

古事類苑

帝王部二十七

外戚下

專權

〔扶桑略紀崇峻〕五年壬子二月、天皇密勅皇子戸言、蘇我馬子、内縱私欲、外似驕飾、雖與如來之教、誠無忠義之情、爲之如何、皇子奏曰、忍辱德深、陛下宜行慈忍矣、

〔日本書紀崇峻〕五年十月丙子、有獻山猪、天皇指猪詔曰、何時如斷此猪之頸、斷朕所嫌之人、多設兵

仗、有異於常、壬午、蘇我馬子宿禰、聞天皇所詔、恐嫌於己、招聚僮者、謀弑天皇、十一月乙巳、馬子宿

禰詐於羣臣曰、今日進東國之調、乃使東漢直駒弑于天皇、（中略）或本云、大伴嬪小皇子、恨龍之衰、使人

猪而詔曰、如斷猪頸、何時斷朕思人、且於内裏大作兵仗、於是馬子宿禰聽而驚之、

〔神皇正統記崇峻〕崇峻天皇は欽明第十二の子、御母は小姉君娘、これも稻目の大臣の女なり、○中

ある人いはく、外舅蘇我馬子の大臣と御中惡しくて、かの大臣のためにころされ給きともいへ

り、

〔日本書紀推古〕三十二年十月癸卯朔、大臣○蘇我馬子遣阿曇連、阿倍臣摩侶二臣、令奏于天皇曰、葛

城縣者、元臣之本居也、故因其縣爲姓名、是以冀之、常得其縣、以欲爲臣之封縣、於是天皇詔曰、今朕則

自蘇我出之、大臣亦爲朕舅也、故大臣之言、夜言矣、則夜不明、日言矣、則日不晚、何辭不用、然今當朕之

世、頓失是縣、後君曰、愚癡婦人臨天下、以頓亡其縣、豈獨朕不賢耶、大臣亦不忠、是後葉之惡名、則不聽、

〔日本書紀皇極〕元年中、是歲蘇我大臣蝦夷、立己祖廟於葛城高宮、而爲八僧之儔、○中又盡發舉